

貴重な文化財を守るために



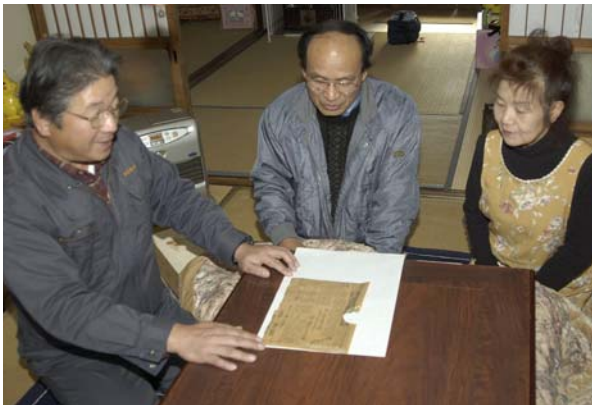
1月26日の文化財防火デーにあわせて、第9回阿蘇神社消防訓練が1月28日、同神社で実施され、阿蘇広域行政事務組合消防本部の隊員や阿蘇市消防団の団員、阿蘇神社職員など約50人が参加しました。阿蘇神社の社殿は昨年、国指定重要文化財に指定されたばかり。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂の壁画が火災により消失したことをきっかけに、文化財保護委員会（現文化庁）と国家消防本部（現消防庁）が昭和30年に定めたもので、貴重な文化財を火災・震災などから守る



ために、全国的に消防訓練が実施されています。この日、拝殿付近で火災が発生し、消火活動を行うという想定のもと訓練が行われ、本番ながらの緊張感の中、参加者たちはきびきびと行動し、訓練に励みました。消防訓練終了後は、中部消防署指導のもと消火訓練や煙内避難訓練が実施され、参加者たちは火災における対応方法を真剣な眼差しで聞いていました。

▶左が笹原さん



下張りの古新聞記事が偶然に

笹原博明さん（中通）が仕事でふすま替えの作業中、下張りの古新聞紙（昭和13年の福岡日日新聞）から、「9人の男児から4人が出征」という見出しで、輝く名誉の家として西湯浦の小島早喜さんご一家が書かれた記事を発見しました。

顔写真もあり、偶然にも同市内の人の記事なので捜したところ、阿蘇市には、出征した三男透さんの次男信仁さんと、四男正さんの長男の妻ヤス子さんがいることが分かり、早速二人のもとへ届けられました。お二人は感激し、「笹原さんの善意に心から感謝します。

結局9人の兄弟が皆出征しましたが詳しい記事の内容に当時が偲ばれます」と感慨深げでした。

笹原さんによると、昭和30年代以前のふすまには紙が下張りしてあるので、女学校時代の答案用紙や借用書が出てきたこともあるとか。古いふすまには家の思い出が隠れているようですね。

子どもに夢を!特大ケーキをプレゼント

「わたしより大きい!」と園児たちもビックリの大きなクリスマスケーキが、12月19日、内牧保育園に贈られました。

これは、内牧の木下恭助さん（有）お菓子の味幸代表取締役）が、日頃の感謝と子どもたちの思い出づくりにと社会奉仕されたもので、結婚式用の2倍はあるという150人分の生クリームケーキをプレゼントされました。

木下さんは、「こんな特大ケーキは初めて作りました」と子どもたちの笑顔に大満足。これからは毎年近くの保育園に贈られるそうです。

